

話題提供

劉 靈均 氏

(明治大学・相模女子大学非常勤講師)

12月21日(水)**午後2時～午後4時**大阪公立大学 人権問題研究センター
オンラインと対面開催を予定しています。定員 対面 10名
ZOOM 100名
事前申込・先着順**無料**参加希望者は otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp に前日正午までにご連絡
ください。定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

「活動家」が見た台湾の「同志」文学における日本

「LGBT先進国」の
文学？

台湾は2019年にアジアで初めて同性婚が法制化された国になった。女性の政治参加が多いなど、日本から見ると、台湾は「ジェンダー先進国」「LGBT先進国」とみなされてきた。

しかし、そのようなLGBT運動とお互いに牽引しあってきた「同志文学」というLGBTの当事者をテーマとする文学を紐解けば、日本がかつて台湾の当事者のユートピアであり、今もなお想像力の源であることがわかる。

約10年以來、「LGBT活動家」としてきてきた「日本」と「文学研究者」として読み解けた「日本」の関係について考えていきたい。

【新型コロナウイルス感染予防対策のため、ご協力をお願いいたします。】

※発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。※かならずマスクの着用をお願いいたします。

※会場入口に消毒薬をご用意しておりますので、ご利用をお願いいたします。